

日常生活を
提供して
牧野 友紀子

あすか1の利用者のほとんどは横地分類のA1の人達で、有意な言語理解および表情の変化や自発的な動きが見られません。特に、A1-C(目覚めて目を開き、眠って目を閉じるといった日内リズムが認められない障害)の人達は反応が見えにくいいため、部分的な働きかけよりも、全身で刺激を感じてもらえるような働きかけが良いと考えています。

例えばAさんは、人工呼吸器を装着しており睡眠・覚醒リズムが認められません。また、体温調節も難しく、容易に低体温になってしまうようです。そのため日常の大半をベッドで過ごしており、日常生活もベッド上で行うことが多くなります。ベッド上では、全身のマッサージを行います。両手で軽く触れる程度から徐々に指圧を行ったり、両手で身体を部分的に揺らしたりします。関わる職員は、両手・目・耳でAさんの小さな大切な反応に注目しながら、10分程度行なっています。また、暖かく天気の良い日は車椅子に乗ってテラスに出ます。外気を浴びるとAさんが頭を少し反らしたり、舌や眼瞼の動きが見られ、頬も紅潮します。これらの反応の意味しているものはまだわかりません。もしかしたら風や光などを感じているのかもしれない。

日常生活を
提供して
的場 理恵

私も、利用者にとって日常生活の時間が「楽しい時間」であって欲しいと思っています。また、同じ活動を繰り返して行い経験することで、更に楽しくなり興味も広がっていくのではないかと考えています。

Aさんは、横地分類A4の方です。ボールを掴んで入れ物に入れる、積み木を積み重ねて倒す、紐を引っ張るという活動を提供しています。ボールを入れたり積み木を倒すということは本人が得意なことですが、職員と一緒に行うことで、よりいっそう楽しめる様で笑顔が増えます。また、自ら手を伸ばし何度もやろうとすることから、その日常生活を楽しんでいると感じられます。最近では、ボールや積み木を移し替えるなど、今まで出来てきたこと以外の新たな動き(楽しみ方)が見られるようになりました。繰り返して行うことで、素材に興味湧き興味の幅が広がったり、違う楽しみ方をみつけたりしているのではないかと思います。

活動中の表情や、新たな表情(新たな行動)についてのエピソードを他の職員と語り合い共有することで、次の活動のステップアップにつながっていきます。なかなか一人では思いつかないこともあり、周りの職員にアドバイスをしてもらいながら、いい活動が提供できるよう、試行錯誤しながらの日々です。



(うらら介護職員)

「フェスタおおぞらを開催いたしました」

(2010年9月26日)

途中雨に降られましたが、多くの来場者がありました。

ボランティアで関わってくださった方や家族の会の方たちに感謝申し上げます。



「道路脇の草刈りを行っていただきました」

(2010年10月17日)



家族の会の会員のみなさんが、道路脇の草刈りや玄関入口付近の花壇への花植えを行っていただきました。

ありがとうございました。